

2024年12月15日（日）「今ぞ生まれし君を讃えよ」

ルカ 2:8-20

8 さて、その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。9 すると、主の天使が現れ、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。10 天使は言った。「恐れるな。私は、すべての民に与えられる大きな喜びを告げる。11 今日ダビデの町に、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。12 あなたがたは、産着にくるまって飼葉桶に寝ている乳飲み子を見つける。これがあなたがたへのしるしである。」13 すると、突然、天の大軍が現れ、この天使と共に神を賛美して言った。14 「いと高き所には栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」

15 天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行って、主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。16 そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼葉桶に寝ている乳飲み子を探し当てた。17 その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使から告げられたことを人々に知らせた。18 聞いた者は皆、羊飼いたちの話を不思議に思った。19 しかし、マリアはこれらのことをすべて心に留めて、思い巡らしていた。20 羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の告げたとおりだったので、神を崇め、賛美しながら帰って行った。

待降節第三週となりました。来主日にはクリスマス礼拝を控えていますが、それに先立って今日は讃美歌の解説メッセージをさせていただきます。せっかくのクリスマスシーズンですが、歌えるクリスマスの讃美歌は限られていますので、それだけに一曲一曲を大切にしたいと思っています。

今日扱う讃美歌98番は、イギリスの伝道者ジョン・ウェスレーの弟、チャールズ・ウェスレーが作曲したクリスマスソングの傑作です。ウェスレーの讃美歌として、イギリス国教会の祈祷書の中に唯一採用されたもので、英語で書かれた四大讃美歌のひとつとされています。

讃美歌 98

1. 「天には栄え 御神にあれや
地には安き 人にあれや」と
御使いたちの 讃うる歌を
聞きて諸人 共に喜び
今ぞ生まれし 君を讃えよ

1節の内容は、野宿をしていた羊飼いたちに、キリストが誕生されたというニュースが天使たちによって最初に告げられたという、ルカ2章のストーリーが背景にあります。この時

代、羊飼いというのは社会の底辺にいた人々であり、彼らは大変貧しい生活をしていました。私は、なぜこの名もなき羊飼いたちがキリストの誕生という歴史的なニュースを聞くのに最初に選ばれたのか、長年関心を持ってきました。彼らは聖書を知っていたのだろうか。そもそも文字を読めたのだろうか。口伝えに救い主の到来の約束を聞いたことがあったのだろうか。救い主を待ち望んでいたのだろうか。聖書には、彼らがどういう信仰を持っていたかなど、何一つ書かれていないのです。

パレスチナにおいて、羊の夜番のために野宿していたということは、夏の暑い時期であったことを物語っています。冬は寒すぎて野宿はできなかったからです。彼らはいつものように、オオカミなどの猛獣が羊を襲いに来ないか、見張りつつ過ごしていました。そこに突如として、この世のものとは思えない眩い光が照り輝き、天使が現れました。超自然的な存在を目の当たりにし、彼らは恐れ慄きました。ところが、御使いは彼らに驚くべき喜びの知らせを告げたのです。

「恐れるな。私は、すべての民に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町に、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、産着にくるまって飼葉桶に寝ている乳飲み子を見つける。これがあなたがたへのしるしである。」

(2:10-12)

「ダビデの町」とは、主イエスがお生まれになった村ベツレヘム。この村はダビデ王の出身地でもあり、ダビデも羊飼いであったことから、不思議な共通点を見出すことができます。ダビデもまた貧しい身分からのスタートでした。主イエスが「ダビデの子孫」としてお生まれになったことは、ご自身もまた「迷える小羊」（すなわち、すべての罪人）のための羊飼いとなられること、そして神の国の王であられること、この両面を表していたと思われま

すと、突然、天の大軍が現れ、この天使と共に神を賛美して言った。「いと高き所には栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」(2:13-14)

キリストの誕生の報せが伝えられるや否や、おびたしい天使が現れて大合唱を始めました。キリストの誕生は「神の栄光」を現す出来事だったのです。同時に、地に住む人々に「平和」をもたらす出来事でもあった。神と人との関係に平和がもたらされる、そして栄光を帰すべき方に栄光が帰されるようになる。神と人との仲保者として主イエスはお生まれになったのです。

2. 定め給いし 救いの時に

神の御座を 離れて降り

卑しい賤の 処女に宿り

世人の中に 住むべきために

今ぞ生まれし 君を讃えよ

神様は旧約の時代から「救いの時」が到来することを、預言者たちの口を通して民に予告しておられました。

それゆえ、主ご自身があなたがたにしるしを与えられる。見よ、おとめが身ごもって男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。悪を退け善を選ぶことを知るようになるまで、彼は凝乳と蜜を食べる。(イザヤ 7:14-15)

キリストは永遠に父なる神と共におられ、万物の創造に伴われました。本来、その栄光のうちに留まり続けるべき方であった。しかし、神の一位格としての栄光を永遠に保有しておられた主イエスが、定めの際に人としてお生まれになったのです。それも、貧しい一人の少女マリアを母とし、聖霊によって身ごもるという人知を超えた方法によって誕生されました。貧しさの中にも、聖なる神の栄光を宿してお生まれになったのです。神の子が、罪に満ちた世界においでになった。ただ一人、罪のない方として、罪人の友となるため、そして救いをもたらすために。

3. 朝日の如く 輝き昇り

御光をもて 暗きを照らし
土より出でし 人を活かしめ
尽きぬいのちを 与うために
今ぞ生まれし 君を讃えよ

主イエスは、ベツレヘムという名もなき村の家畜小屋で、誰にも知られることなく、ひっそりとお生まれになりました。いえ、その誕生の報せを受けたのは、あの貧しい羊飼いたちでした。主の誕生は「貧しさ」で満ちていました。しかし、その貧しさのうちに、神の栄光が現れていたのです。神からの救いは、権力によらず、能力によらず、神の霊による（ゼカリヤ 4:6）ものでした。人間の偽りの栄光が一ミリも介入できないところで、神は人の貧しさのうちにご自身の栄光を現されたのです。「御光をもて 暗きを照らし」とは、暗黒の世に神の真理の光が照り輝いたことを意味します。それは、暴力に対して暴力をもって返す道ではなく、権力や経済力によって人を支配する道でもなく、人を愛し、人に仕え、心の傷を癒し、赦しによって憎しみの連鎖を断ち切る道でした。その新しい生き方を人にもたすため、福音を全世界に宣べ伝えるために主イエスは世に來られたのです。「尽きぬいのち」とは、神の国からもたらされるいのち、永遠のいのちです。

クリスマスは私たちの救いが到来したことを喜ぶ日です。主イエスが貧しさのうちに生まれてくださり、心の貧しい者の友となってくださったことを覚えたい。来主日はクリスマス礼拝を守ります。この待降節の最後の一週間、私たちは「へりくだった心」で過ごし、主イエスをお迎えしたいと思います。心の高ぶった者には主イエスの救いは見えませんでした。それは今でも同じです。私たちが自らの罪を認め、自分には救いが必要であることを心から告白し、祈りをもって待ち望むとき、主はこの心に来てくださるでしょう。私たちの心に神の光が照らされるように、また、私たちも神の光を反映して暗き世を照らすことができるように、主イエスの救いを受け留めたいと思います。

【祈り】

栄光の王でありながら、最も貧しい者の姿でお生まれくださった、イエス・キリストの父なる神様。今年もクリスマスを迎えようとしています。この喜びの時、私たちはどのような心で日々を過ごすべきでしょうか。罪人の友となるために来られた主イエスを心に迎え入れるため、私たちもまたへりくだり、自らの弱さを告白しつつこの週を歩むことができますように。貧しくとも神の栄光を宿した御子イエスが、私たちの心に宿り、私たちをも「世の光」としてくださるようお願いいたします。暗き世を照らす福音の光として、この生涯を全うしたく願います。

【祝祷】

仰ぎ願わくは、
永遠より御子と共にまし、天地創造の御業を成し遂げ給うた、父なる神の愛、
神の御座より降り、最も貧しい者として生まれ給うた、主イエス・キリストの恵み、
嬰兒イエスを救い主として迎え入れ、世の光とならせ給う、聖霊の親しき交わりが、
あなたがた一同の上に、限りなくあらんことを。